



ハイライトよねやま 152

1 事業の誕生から60年



はじめに、みなさまの日頃のご支援に心より感謝申し上げます。おかげさまで当事業は、東京RC（当時：古沢文作会長）が1952年11月4日に発表した「米山基金」から60周年を迎えました。

毎年800人（*来年からは700人）、これまでに121の国と地域から17,000人の外国人留学生を支援する民間最大の国際奨学事業ですが、最大の長は、世話クラブ・カウンセラー制度で育まれる“人づくり”にあると思っています。昨今、日中・日韓関係の難しさに直面していますが、今ほど当事業の使命を強く感じる時はありません。

巣立った学友たちは、自らが世界各国で活躍していることはもとより、さらに次の世代へ日本の心を伝えている学友も大勢います。今年は、海外で4番目となるタイ学友会が誕生するなど、われわれが蒔いてきた平和と友情の種は、確実に実を結んでいます。

これまでのみなさんのご厚情にあらためて御礼申し上げるとともに、戦後日本のロータリアンが守り続けてきた“米山”の灯を、さらに強く、広く、灯して参りましょう。これからもどうぞよろしくお願い致します。（理事長 板橋敏雄）

2 寄付金速報 — 米山月間へのご支援に感謝！ —

10月までの寄付金は前年同期と比べて1.4%増、約710万円の増加です。普通寄付金が1.3%減、特別寄付金が3.6%増となりました。10月が米山月間ということで、先月に引き続き高額寄付が多くあり、7人から合計850万円（うち1法人を含む）もの大口寄付に感謝申し上げます。

このような経済状況の下、学友を含め多くのロータリアンの方々からご寄付をいただきまして、ありがとうございます。上期も残り2カ月を切りましたが、今後とも引き続き当会事業へのご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3 2013学年度奨学金の申し込み状況

2013学年度の米山記念奨学金（学部・修士・博士課程／地区奨励）には、指定校500校のうち431校（昨年度：475校のうち419校）から1,310人（同：1,449人）が推薦されました。来年から採用数が700人となるため、被推薦者の数が減っています。

被推薦者の国籍・地域別割合は、中国が61.4%（前年度比▲2.9%）、韓国14.7%（▲0.8%）、台湾3.2%（+0.5%）、その他が20.7%（+3.1%）となり、中国・韓国の割合がやや減少した一方、台湾およびその他の国籍が増加しました。その他の国籍で多かったのは、ベトナム、マレーシア、モンゴルでした。課程別では、博士課程が23.3%（▲0.2%）、修士課程43.0%（▲2.5%）、学部課程32.5%（+3.0%）で、学部生の割合が増加傾向にあります。また、大学以外の教育機関を対象とする「地区奨励奨学金」は、4地区8校から計16人の応募がありました。

上記とは別に、現役奨学生の延長制度「クラブ支援奨学金」には9地区11クラブから、また、試行2年目となる「海外応募者対象奨学金（個人応募）」には、前年の約3倍となる207人の応募（採用枠は15地区各1人）がありました。

11月中旬から順次、各地区へ応募書類を発送し、1月下旬までに地区選考委員会による書類選考・面接試験が実施され、2月中旬には新規採用者501人（2012年11月現在）が決定します。

4

米山奨学生らが熊野古道の道普請 — 第 2640 地区 —

昨年、紀伊半島に甚大な被害をもたらした台風 12 号は、世界遺産の熊野古道にも爪跡を残しました。道の修復が必要などころが何ヶ所も生じているため、第 2640 地区（大阪府・和歌山県）米山記念奨学委員会では「米山学友紀南奉仕活動」を企画。9 月 20～21 日の 2 日間、奨学生 10 人と学友 2 人の計 12 人が、熊野古道の修復ボランティアに参加しました。

奨学生らは、額に汗しながら懸命に土を運び、終了後は国の重要文化財に指定されている熊野本宮大社（和歌山県田辺市）に参詣。田辺市長を表敬訪問したほか、夜は田辺東 R C との親睦夕食会に合流して、地元ロータリアンとの交流を深めました。同地区米山記念奨学委員長の谷野一彦氏は、「今回の活動は企画段階から、米山奨学生との交流の少ない紀南地方の多くのクラブ・ロータリアンの皆さんが携わってくださり実現できました。歴史ある熊野古道の修復作業をお手伝いできたことは、参加した奨学生にとって、より深く日本を理解する機会になったと思います」と、感謝を述べています。



5

米山学友たちの被災地支援 — 南三陸町 —



2012 年 11 月 3 日、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町で、東京米山友愛 R C 副会長のギリ・ラムさん（1998-2000 / 室蘭 R C）が中心となり、「ネパール民族舞踊とカレーの炊き出し支援」を行いました（共催：在日ネパール人協会・北海道マルディコラネパール教育基金 協力：佐沼 R C）。

活動に参加したのは東京米山友愛 R C 会員 10 人のほか、米山ロータリー E クラブ 2750 会員を含む米山学友 4 人、在日ネパール人協会会員など計 33 人。仮設住宅街の一角にある集会場ではネパールの華やかな民族舞踊が披露され、今なお仮設住宅に住む人々が手拍子をおくったり、明るい笑顔で一緒に踊ったりしました。屋外のテントでは 500 人分のカレーがふるまわれ、長蛇の列ができるほどの大盛況でした。

ギリ・ラムさんは「2 日の夜 11 時に出発し翌日夜 11 時半に東京へ戻るハードなスケジュールでしたが、被災地の方々が喜んでくださる姿に接し、今後もこのように目に見える形での活動を続けていきたいと思いました」と語り、被災者からは「私たちもこれからは“被災者”ではなく、支援者になりたい」との言葉も聞かれました。

米山の親善大使を募集します！

— 米山学友表彰制度 —

東京 R C による「米山基金」設立から 60 周年を迎えたことを記念し、日本国内で活躍する米山学友を“ロータリー米山親善大使”に認定し、表彰する制度を新設します。選ばれた学友には記念品や親善大使の名刺を贈呈し、約 2 年間、米山記念奨学事業の魅力を広く伝えていただきます。皆さまの周りで、「母国と日本の懸け橋になって活躍している」「世界平和に尽力している」など、頑張っている学友がいましたら、ぜひご推薦ください。自薦、他薦は問いません。締め切りは 2013 年 1 月末です。詳しくは米山記念奨学会ホームページまで。



米山の親善大使になりませんか？

優秀米山学友賞